

ことは知り得られ、可なり壯大なものなることを認むるに難くない。別の報道に據ると廊下で囲まれた正方形の部屋の中に棺が置かれ、さうしてその部屋は丈夫な木で組み立てられ三重に材木でえん護されてあるとのことである。ところでこれ等のふん墓はみなかつて墓荒しの手に罹つて省略せられて居る。もちろんそれは墓中に死骸と共に埋められた金器の類を盗みだすためなので、厚葬の風俗を有する地方の墓荒しは、必ずしもイ氏のいふやうにハングリー、黒海からバイカル湖の東方に限らず、支那でも朝鮮でも、中亞でもその他の世界の諸地方でも資本いらずのまうけ仕事として、これに従ふものは到る所にある。かのエルミタージュ博物館の多くの金牌の如きも、イ氏の記して居る通り多くはかくして得られたものである。それでこれ等の墓からコ氏探検隊の獲たものは、當然の結果として金銀類の財寶が少いが、幸にも金目にならないがために墓荒しの目から逃れて、然も學術研究上の資料としては貴重な價值を有するものが少くない。

## 二

コズロフ氏の發掘の主なるものを列記すると、黄金類では、棺にくぎ付けされた薄いバラ形、三角形または細長形のかざり、その中には赤うるしを施したものもある。やゝ厚手のかざり、中には模様を打だしたり、石をはめ込んで飾つたものもある。圓板、透刻板、羽のある馬の座つた圖案を有する凹板、石をはめた板、雄牛の頭、びやう。青銅類では、多數のバラ形の飾り、中にはメッキしたものもある。棒、この中にはうるしを塗つたのもあつて、